

神津佐啓発会

海と山の自然が織りなす風光明媚な南伊勢町で、五ヶ所湾に面する神津佐地区。若者7人が「神津佐活性化グループ」を結成したのは、平成15(2003)年のことです。30人以上の賛同者を集めて活動を始め、翌年には現在の「神津佐啓発会」に改称して正式に発足。地域に伝わる祭りや風習を、若い世代が地域の魅力を楽しみながら受け継いでいます。



会長 森井 一晴さん

お問い合わせ

森井 一晴さん
(森井建設工業)
南伊勢町神津佐1158-4
TEL 0599-66-1061

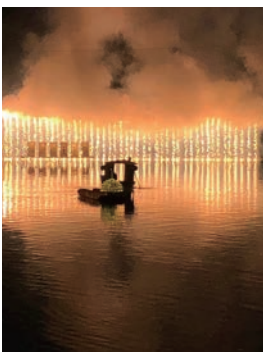
昭和30(1955)年の南勢町合併前、神津佐地区は神原村と呼ばれ、子どもたちは啓発小学校に通いました。今後、町の合併が繰り返されたとしても、その名が消されぬよう、会の名称に「啓発」を入れ、神津佐在住の若い世代が、地域を盛り上げていくことをテーマに活動を開始。「神津佐啓発会」の現会長を務める森井一晴さんと創設メンバーの初代会長・徳田真宏さんにお話を伺いました。

——発足から20年以上が経ちました。長い活動ですね。

徳田：発足のきっかけは幼かった頃に見た祭りや行事などの楽しい思い出を、

にもなっています。

徳田：小学生の頃は盆踊りで仮装踊りがあり、工夫を凝らした人には地区から賞金が出るなど盛り上がりがありました。人が少なくなった盆踊りを盛り上げるには仮装踊りの復活だと思い、楽しんでやっています。そうすると子どもたちや高齢者も参加してくれるようになりました。それと津波への心得を唄った神津佐独自の音頭「津波くどき」を継承



仕掛け花火の「ナイアガラ」※



神津佐川に流す灯籠※



年末年始に飾る大きな門松※



町を彩るイルミネーション※



メンバーは仕事もさまざまな業種が集まる※

ましたし、今では移住者の方も会に入ってくれています。人が町をつくり、町が人を作るという循環が、自然とできてきているように思います。

——現在の会員は31人。夫婦で参加する家庭もあるようです。若い頃に感じた祭りや行事の楽しさを取り戻し、子どもたちにもそれが伝わり、世代を超えた交流が地域のコミュニティを支えています。

インタビュー……中村元美

次の世代にも残していきたいとの考えからでした。活動の根底にあるのは「神津佐が好き」という気持ち。会なので規約などがありますが、ここに住んでいる人なら活動は当たり前のこととして、関わってくれています。

森井：私たちが活動することで、子どもたちにも神津佐のよさを感じてもらい、ここに住んでよかったという気持ちが根付いて、想いを繋いでくれたらと願っています。伝統的なものを昔のように楽しく盛り上げることを目的にしているの、地区行事への参加が中心です。

——神津佐の世帯数はそれほど変化はないですが、高齢化は進んでいますね。

——はいこうと勉強中です。

森井：この地で嘉永7(安政元)(1854)年に安政の大地震が起こり、その時の地震の津波に対する心得として村の人が書き残している、その古文書を読み解き、いつからか盆行事の時に披露すること、みんなに伝わってきたんです。その先人の想いは繋いでいかなければなりません。

——夏の行事以外にはどんな活動を。

森井：冬のイルミネーションの設置や正月の門松飾りなどは恒例ですが、その時々で出来ることを協力し合ってみることに喜んでもらえることをやっています。基本は神津佐が神津佐であり続けるための活動です。高校卒業後、一時大阪で働いていましたが、神津佐に戻ってきたときには徳田さんたち先輩がこの活動を始めていました。会での活動が地元で早く馴染めるきっかけにもなりましたし、今では移住者の方も会に入ってくれています。人が町をつくり、町が人を作るという循環が、自然とできてきているように思います。